

人にも地球にもやさしいLED。

第18期 株主通信

# IR REPORT

2010年8月1日～2011年7月31日まで

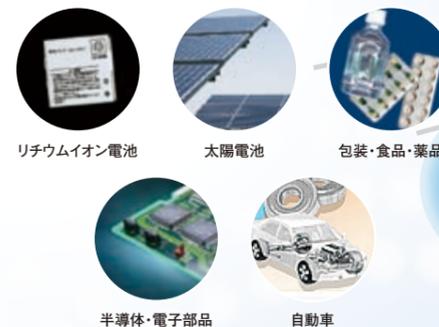
## CONTENTS

What's CCS .....	1
株主の皆様へ .....	2
トップインタビュー .....	3
特集：品質へのこだわり .....	5
連結決算の状況 .....	7
連結財務諸表（要約） .....	8
トピックス .....	9
会社概要／株式の状況 .....	10

**シーシーエス株式会社**

証券コード：6669

### LED照明事業



### 工業用照明分野

#### マシンビジョン照明とは

さまざまな製品の製造ラインで画像処理技術が活用されていますが、撮像対象物に応じて光の調整が必要となることから、LED照明がこの画像処理における成功のカギを握っています。人間の目では判別が難しい微細で複雑な工業用製品をはじめ、飲料ボトルや食品パッケージなど、その用途は、広がっています。最近では太陽電池やリチウムイオン電池、液晶パネルや高機能フィルムの検査にも、多く使われています。

#### マシンビジョン照明

シーシーエスは、マシンビジョンLED照明におけるリーディングカンパニーとして、独自のコアテクノロジーにもとづき開発したバリエーション豊かな照明ラインアップとライティング・ソリューション\*を提供しています。  
\*ライティング・ソリューション=光の照射範囲、照射角度、照射波長など、さまざまな要素を組み合わせた光の当て方の総合的なノウハウを言います。

#### その他工業用照明

目視・顕微鏡分野では、消費電力などの効率性に加え、作業者の立場に立って光の明るさや質も追求しています。また、UV(紫外)照射器等は、検査工程だけでなく製造工程でも活用されています。

### 新規事業分野

マシンビジョン照明分野で培った技術とノウハウを横展開し、ライティング・ソリューションを強みに幅広い分野へ展開しております。さらにLEDデバイス技術により開発された自然光LEDを中心に、製品展開を行っています。

### 植物育成プラント事業

植物工場に不可欠な植物栽培コンサルティング、従業員教育、栽培アフターサポート等、ソフト面での支援を提供しています。  
\*植物育成プラント事業は、当社が開発した植物育成用LED照明を提供し、株式会社フェアリープラントテクノロジーが植物工場設計技術と栽培ノウハウを提供しています。



#### 民生・商業用照明

世界最高レベルの高演色性\*をもつ『自然光LED』を使用した照明を基軸に、美術館・博物館、商業用施設に最適な照明を提供しています。  
\*高演色性=一般的に演色性の高い光源とは、対象物の色合いを変えずに照らし出すものを言います。



ダイヤモンドライト



LED電球

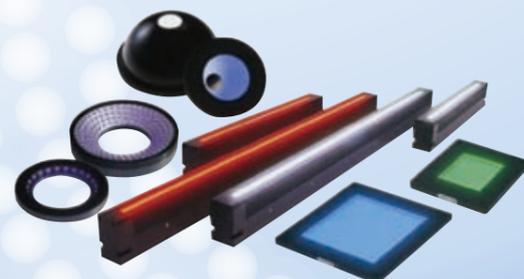
#### アグリバイオ用照明

大学や研究所向けに独自開発の植物育成用LED照明を提案すると同時に、植物育成プラントにおける最適なLED照明の開発をしています。



#### メディカル用照明

内視鏡用など診断機器をはじめ、治療に必要な光の応用方法を研究・開発しています。



集光技術

放熱技術

LED  
コア  
テクノロジー

製造技術

LED  
デバイス  
技術

株主の皆様へ

## To Our Shareholders

### ご挨拶

株主・投資家の皆様には、平素格別のご支援を賜りここに厚く御礼申し上げます。  
また、本年3月11日に発生しました東日本大震災により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被害を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。  
当期における当社グループは、大震災の影響はあったもののスマートフォン（高性能携帯電話）等の普及や海外需要の取り込みなど、電子・半導体業界向けに着実な伸びを見せました。また、植物育成プラント事業においては期初に不採算部門からの撤退等により、赤字額の大幅な圧縮を図りました。  
以上の結果、売上高5,314百万円（前年同期比11.3%増）、営業利益228百万円（前年同期は営業損失239百万円）、経常利益179百万円（前年同期は経常損失253百万円）、当期純利益89百万円（前年同期は当期純損失1,419百万円）と、3期ぶりに黒字転換を果たすとともに、第三者割当による株主資本増強によって「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消することとなりましたこともご報告申し上げます。  
当社グループは今後も、一丸となり株主の皆様のご期待に沿うべく事業に取り組んでまいりますので、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表執行役社長  
米田 賢治

社是 お客様に愛と感謝

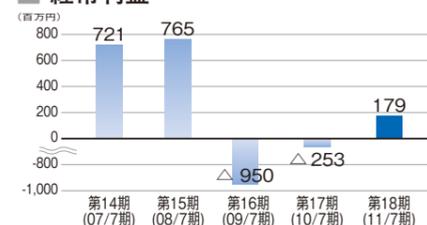
企業理念 光を科学し、社会に貢献する

### 財務ハイライト

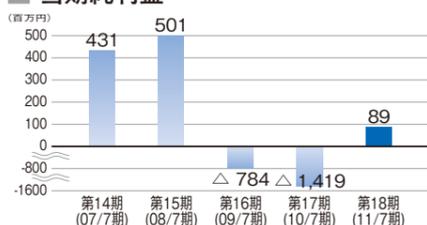
#### 売上高



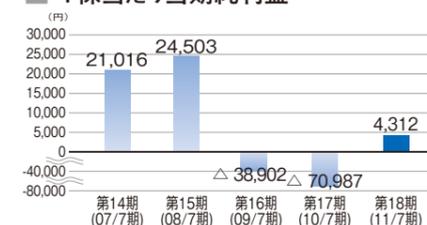
#### 経常利益



#### 当期純利益



#### 1株当たり当期純利益



# Top Interview

## “光の世界企業の実現”へ向けて、着実に事業を育ててまいります

**Q1** 2011年7月期（第18期）を振り返って概況を教えてください。

**A** 海外事業展開のための体制作りが実を結び、欧州、アジアが伸張

国内のLED照明事業は、東日本大震災の影響もありましたが、スマートフォン（高機能携帯電話）等の伸びにより電子・半導体業界向けの売上が好調に推移しました。また、震災の影響による製缶・容器・ペットボトルの需要増が追い風になり、三品（食品、医薬品、化粧品）業界向けも増加しました。

海外向けLED照明事業においては、「海外事業展開のための体制づくり」が実を結び、電子・半導体関連の大口顧客向けを中心に欧州での売上が大幅に増加したほか、中国を中心としたアジア向け売上也順調に拡大しました。

一方、植物育成プラント事業においては、野菜事業お

よびレストラン・カフェ事業について早期の黒字化が難しいと判断し、第1四半期をもって撤退した結果、赤字幅を大きく縮小することができました。

財務面では、本年7月に優先株式の第三者割当増資により約10億円の株主資本を調達いたしました。この資金調達により、今後必要な成長資金を取り込むことができたことに加え、割当先の保有するネットワークや情報力を新規事業拡大のために活用することができることから大変有用な機会を得たと考えています。

**Q2** 2012年7月期（第19期）の展開について教えてください。

**A** 当社の強みであるライティング・ソリューションと新製品を積極展開

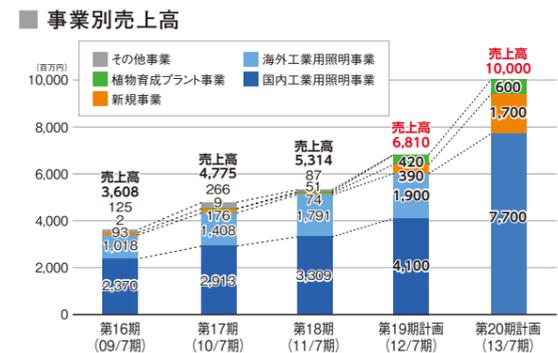
今期は急速に高まる「省エネ化」、「LED化」意識を背景に、事業基盤を一段と強固なものとすると同時に、売上・利益の拡大に積極的に取り組んでまいります。

まず主力のLED照明事業ですが、工業用照明においては顧客満足最大化を目指し、新製品や当社の最大の強みであるライティング・ソリューションではスピード感をもって積極的に提案し、現在の国内シェア50%をさらに引き上げることを目指します。新製品については、前年比2倍以上の品数をリリースしており、他社に対する大きな差別化要因となっています。

新規分野については、まず民生・商業用分野において、本年8月に国内初の高演色・高輝度LED電球をリリース

いたしました。大手量販店と楽天でのネット上でテスト販売を実施し、大変好評いただき、今後本格展開に努めてまいります。アグリバイオ分野においては、LEDの進化による電力使用量の低減等を背景に、植物育成プラントの採算が合うようになってきたため、植物育成プラントで使用する光源をすべて当社のLED照明に切り替えていきます。また、小型の「ミニベジプラント」を試験的に導入していただき、効果測定の後、より大型プラントの採用を提案していく計画です。

メディカル分野においては手術用照明を発売予定であり、LEDの応用場を一層拡大してまいります。これらに加え、「海外市場の積極的な開拓」、「海外拠点を活用したコストダウンの推進」などにも取り組み、2012年7月期（第19期）は売上高6,810百万円（前年同期比28.2%増）、経常利益710百万円（同296.6%増）、当期純利益400百万円（同349.4%増）の実現を目指してまいります。

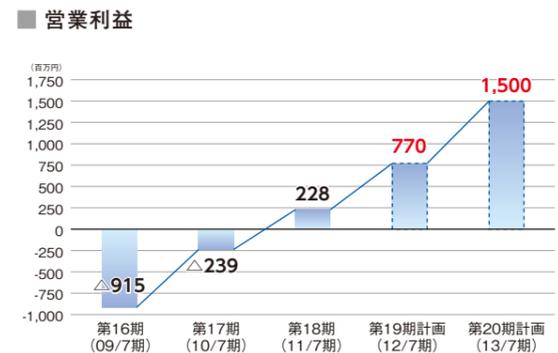


**Q3** 中期経営計画「光へのチャレンジ20」の進捗状況について教えてください。

**A** ムダを排除し、さらなる効率化・収益性の向上を目指します。

中期経営計画では、「2013年7月期（第20期）売上高100億円、営業利益15億円」という数字を掲げています。この目標自体は変更いたしません、国内における震災の影響や海外でのギリシャ問題など、足元の経営環境の変化を踏まえて道筋を変える必要が生じました。中期経営計画における2012年7月期（第19期）目標は当初「売上高75億円、営業利益7億5,000万円」でしたが、今般、「売上高68億円、営業利益7億7,000万円」へと修正しております。

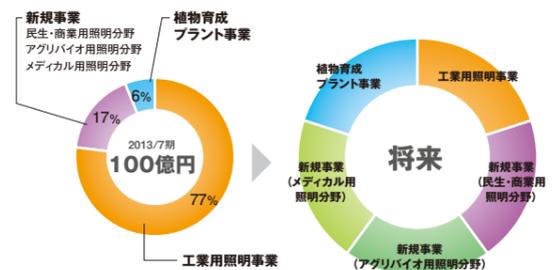
売上については前述した新規分野の立ち上がりを今下期からと見ており、さまざまなアライアンスの推進や主力の



工業用照明事業の国内外での増強、シェアアップと合わせ、中期経営計画の最終年である来期にかけて急速に拡大するものと見込んでいます。一方、営業利益率見込みが10%から11%強に上方修正されているように、利益目標達成のために「生産性の向上」に注力してまいります。

そのための施策として、社長プロジェクトとして「生産性倍増プロジェクト」をスタートさせました。この取り組みでは、各部門の主要メンバーを集め、部門内や部門間のムダを排除するべく、現在その課題抽出を行っており、現在の人員を大きく増加させることなく生産性を向上させ、売上高を倍近くまで上げる体制の構築を目標としています。拠点間の連携を改善し、主要部門の集約化・最適化集約を進めます。また、人材育成も本人のモチベーション喚起から教育に至るまで根本にメスを入れ、改革していくことを考えています。さらに、部分最適から全体最適を目指した新たな生産方式「TOC理論」も導入を始めました。

### 盤石な経営基盤に向けたセグメント構成



**Q4** 最後に、経営ビジョン、企業としての夢について株主様へメッセージをお願いします。

**A** 多角化によって磐石な経営基盤を構築

当社は、「お客様に愛と感謝」を社是に掲げ、「顧客満足最大化」を目指し、事業を進めてまいりました。これまでは工業用照明事業を中心に事業展開を行ってまいりましたが、これをさらに広く展開していきます。私たちには創業以来の18年間で培った照明技術があります。この照明技術、デバイス技術等を横展開し、当社の誇るコア技術をもちい、今後も新規事業を立ち上げてまいります。そして、事業の柱を、工業用照明事業だけでなく新規事業においても、民生・商業用照明分野、メディカル用照明分野、アグリバイオ用照明分野と、多角化によって盤石な経営基盤を築いてまいります。

さらに、中期経営計画「光へのチャレンジ20」で掲げた第20期売上高100億円が実現したあかつきには、次の200億円、500億円という大きな目標を掲げ、『光の世界企業の実現』へ向けて、着実に事業を育ててまいります。

今、私たちシーシーエスの未来を見る眼は、強い確信をもって開かれつつあり、省エネ等、時代とともに波に乗ってきているという実感とともに、株主の皆様のご期待にしっかりと応えていく自信があります。

当社グループ一丸となり事業に取り組んでまいりますので、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# Feature

## 「QUALITY FIRST」 を合言葉に

シーシーエスは製品品質を維持し向上を行うために、ISO9001を導入し、デザインレビュー (DR) 制度に基づき、お客様に安心・信頼・感動を与える品質にこだわった製品作りを実現しています。このこだわりがお客様に選ばれる理由です。

お客様に「信頼」を提供

お客様に「感動」を提供

お客様に「安心」を提供

### さらなる品質向上を実現する “デザインレビュー”制度

製品へ反映

#### 製品開発工程

**企画**

幅広い声に耳を傾け、新製品の仕様を検討しています。「世の中にない製品でこんな製品が欲しい」というお客様の潜在ニーズを掘り下げ、製品に反映していきます。

#### 製品企画審査会

市場性とお客様のご要望を取り入れた商品化の検証、また技術的に実現可能かどうかを検証します。

デザインレビュー DR1

**設計**

製品を長く使っていただけるよう、安定した品質の提供を実現します。また、他社にはないシーシーエス独自のアイデアを実現し、「デファクトスタンダード」となる製品提供を目指します。

#### 設計開発審査会

設計コンセプトが企画と合致し、設計内容が機能、生産性、信頼性、コストの面で妥当性があり、量産試作に移行可能かを検証します。

デザインレビュー DR2

**生産**

新製品を生産ラインに流せる量産評価を丁寧に行い、生産を無駄なくスムーズに進めます。そのなかで、独自のQCD (Quality, Cost, Delivery) を追求しています。

#### 出荷判定審査会

量産試作および量産された製品の機能、生産性、信頼性、コストの面で妥当性があり、出荷可能であるかを検証します。

デザインレビュー DR3

**出荷**

お客様にご指定いただいた日時に確実にお届けすることで、安心・信頼・感動を提供します。そのため必要な体制の見直しを行っています。

#### 製品企画検証会

お客様の声を集めて、製品の市場性が妥当であったかどうか、製品企画を検証します。

デザインレビュー DR4

お客様からの声  
マーケットの声

#### CS委員会

製品だけでなく、サービス・保証等を含めたトータルサービスの向上を図るための具体的な取り組みを検討しています。年に1度、当社のお客様数万人を対象に実施する足最大化の視点から課題を抽出し、社内の改善活製品図面を提供してほしい」という要望をいただき、製品の3D図面を掲載しました。

CSアンケートで収集した情報等を分析し、顧客満動につなげています。昨年度は、お客様から「3DのCS委員会で検討した結果、当社のWebサイトに全

第三者評価  
設計された製品の品質が担保されているかを評価します。

開発ストーリー 1

### レンズ設計の工夫により、 3倍以上の明るさを実現

業界最小、高出力スポット照明「HLV2シリーズ」  
製品企画セクション 山本 淳二



電子・半導体など小さい部品の検査を行うスポット照明において、明るさはもっとも重要な要素です。スポット照明「HLV2シリーズ」の開発では、「どこまで明るくできるか」が勝負でした。お客様の求める明るさを実現するために、シミュレーションをして、実機の組立て作業をするという行程を何度も何度も繰り返しました。その結果、レンズの設計(集光技術)の工夫によって、従来品と比べて3倍以上の明るさを実現することに成功。さらには、「業界最小サイズ」の開発にもつなげることができました。お客様からは、「明るさ」と「コンパクト性」を高く評価いただき、継続的な受注をいただいています。



開発ストーリー 2

### クレーム解消を製品開発に活かし さまざまなアップグレードを行っています

外部制御機能を充実した「PD3-3024-3シリーズ」  
制御技術開発セクション 新見 基弘

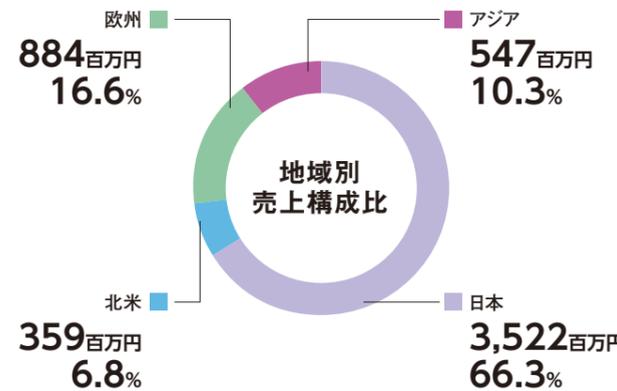
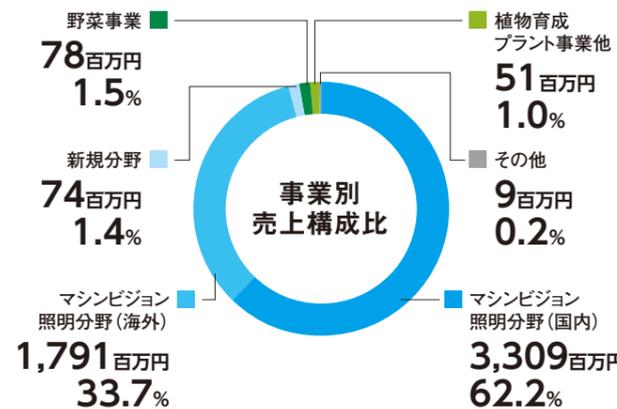


LED照明用電源「PD2」のアップグレードバージョンである「PD3」を開発する際には、「PD2」のクレーム解消を念頭におき製作しました。例を挙げると、過去にお客様の製造現場ではかのモーター等から発生するノイズが「PD2」の制御ケーブルに影響を与え、誤発光することがありました。「PD3」では、ノイズの影響を受けないよう電源内部の構造に工夫を施し、あらかじめノイズ対策を行いました。このようなクレームの解消とともに、制御パターンの充実、多チャンネル・コンパクト化など、お客様からのご要望も盛り込みました。残念ながら、ご要望にお応えしきれなかったお客様へは、個別の特注製品でご対応できるように努めています。



# Consolidated Financial Highlights

## セグメント別の売上状況



※ 百万円未満を切り捨てています。

## LED照明事業

### マシンビジョン照明分野

国内では、「東日本大震災」によりお客様の投資計画が変更、延期された案件もありましたが、スマートフォン、タブレット型携帯端末向け市場が拡大し、売上は堅調に推移しました。また、ラベル・シールのインク硬化、パネルの接着用途等に利用されるUV(紫外)照射器や目視・顕微鏡用照明において、これまでの研究開発・営業活動が実り、受注が好調に推移しました。

海外では、欧州で電子・半導体関連および機能性フィルム向け受注が好調に推移し、大幅な売上拡大となりました。北米では主要顧客への関係強化に努めたことが実を結び、売上が堅調に推移しました。アジアでは、連結子会社 CCS Asia PTE. LTD. が昨年12月に新興国における需要拡大に対応するべく、タイ・バンコクに駐在員事務所を開設しました。また、本年5月には、飛躍的な経済成長を遂げるインドに開発拠点として CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVT. LTD. を設立しました。

### 新規分野

民生・商業用照明分野では、商業施設・美術館・博物館向け「LEDランプ」「LED薄型ライン照明」、宝飾店向け「ダイヤモンドライト」など、自然光LEDを搭載した製品のラインアップ拡充に努めました。また、本年7月に一般家庭向けとして、業界最高水準の演色性と明るさを実現した「LED電球」のテスト販売を開始しました。なお、提携先企業との連携強化を進め、自然光LEDの特長を活かした製品開発・市場投入を図り普及拡大を進めています。アグリバイオ用照明分野では、大学・研究機関等向けに植物研究用LED照明の拡販に努めるとともに、株式会社フェアリープラントテクノロジーと共同で植物育成用LED照明の開発を進めています。メディカル用照明分野では、マシンビジョン照明分野で培った技術を応用し、医療用LED照明の製品開発を進めています。

## 植物育成プラント事業

前期に事業提携した株式会社フジワークの第1号の植物工場が昨年8月より稼働開始しています。また、完全無農薬の野菜栽培が容易にできる「ミニベジプラント」を開発し、提携先企業との展示会出展など、連携強化を図るとともに拡販に努めました。しかしながら、お客さまの設備投資計画の遅れや震災による環境の変化などによって、当期は大規模工場建設のコンサルタント受注には至りませんでした。

## レストラン・カフェ事業／野菜事業／他

レストラン・カフェ事業では、安心・安全な植物工場野菜の啓蒙、商品開発を目的として展開していました。また、野菜事業では、大手スーパーマーケット等に「てんしの光やさい」を販売して営業活動を続けていましたが、早期の黒字化が困難と前期に判断したことから順次事業規模を縮小し、当第1四半期末に両事業から撤退いたしました。

### 第三者割当増資について

本年7月29日に優先株式発行による第三者割当増資を行い、10億円を調達いたしました。調達資金は、今後の成長資金として研究開発投資と海外市場への事業展開費用への充當を予定しております。本優先株式5,103株は、議決権を有しない株式であり、平成24年7月29日以降5年間、定款に定めた条件で当社普通株式の取得請求ができません。詳細につきましては、本年6月10日提出の臨時報告書および関連する訂正臨時報告書をご参照ください。

# Consolidated Financial Statements

## 連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当期 (2011年7月31日現在)	前期 (2010年7月31日現在)
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	4,281	3,301
固定資産	1,897	1,936
有形固定資産	1,704	1,764
無形固定資産	65	81
投資その他の資産	127	90
資産合計	6,179	5,237
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	2,956	2,516
固定負債	1,126	1,755
負債合計	4,082	4,271
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	2,224	1,079
資本金	461	461
資本剰余金	1,513	576
利益剰余金	249	200
自己株式	-	△ 159
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△ 127	△ 112
その他の包括利益累計額合計	△ 127	△ 112
純資産合計	2,097	966
負債純資産合計	6,179	5,237

## 連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2010年8月1日から 2011年7月31日まで)	前期 (2009年8月1日から 2010年7月31日まで)
売上高	5,314	4,775
売上原価	2,122	2,196
売上総利益	3,191	2,578
販売費及び一般管理費	2,963	2,818
営業利益又は営業損失(△)	228	△ 239
営業外収益	81	89
営業外費用	130	103
経常利益又は経常損失(△)	179	△ 253
特別利益	30	38
特別損失	14	1,401
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	194	△ 1,615
法人税、住民税及び事業税	65	14
法人税等調整額	40	△ 160
少数株主損失(△)	-	△ 49
当期純利益又は当期純損失(△)	89	△ 1,419

## 連結包括利益計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2010年8月1日から 2011年7月31日まで)	前期 (2009年8月1日から 2010年7月31日まで)
少数株主損益調整前当期純利益	89	-
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△ 14	-
その他の包括利益合計	△ 14	-
包括利益(内訳)	74	-
親会社株主に係る包括利益	74	-

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2010年8月1日から 2011年7月31日まで)	前期 (2009年8月1日から 2010年7月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	240	△ 414
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 71	△ 119
財務活動によるキャッシュ・フロー	846	△ 70
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 8	△ 21
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,007	△ 625
現金及び現金同等物の期首残高	714	1,339
現金及び現金同等物の期末残高	1,722	714

### ポイント1 連結貸借対照表

第三者割当増資の結果、現預金・株主資本が増加しました。

### ポイント2 連結損益計算書

増収により営業利益、経常利益ともに前期の損失から利益に転じ、当期は純利益89百万円となりました。

### ポイント3 連結キャッシュ・フロー計算書

業績回復により営業活動によるキャッシュ・フローがプラスに転じました。また、優先株式の第三者割当増資により、財務活動によるキャッシュ・フローが917百万円増加し、現金及び現金同等物の期末残高は1,722百万円となりました。

### ポイント4 連結株主資本等変動計算書

第三者割当増資に伴う資本剰余金1,000百万円の増加、ならびに自己株式の当期処分と当期純利益の計上により、株主資本は1,145百万円増加し、純資産は2,097百万円となりました。

## 連結株主資本等変動計算書 当期(2010年8月1日から2011年7月31日まで) (単位:百万円)

	株主資本				株主資本合計	その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
2010年7月31日残高	461	576	200	△ 159	1,079	△ 112	△ 112	966
事業年度中の変動額								
新株の発行	500	500			1,000			1,000
資本金から剰余金への振替	△ 500	500						
剰余金の配当			△ 40		△ 40			△ 40
当期純利益			89		89			89
自己株式の処分				159	96			96
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						△ 14	△ 14	△ 14
事業年度中の変動額合計	-	937	49	159	1,145	△ 14	△ 14	1,130
2011年7月31日残高	461	1,513	249	-	2,224	△ 127	△ 127	2,097

※ 百万円未満を切り捨てています。

## 展示会出展情報

01 TOPIC

## 「国際画像機器展 2010」

会期：2010年12月8日～10日  
会場：パシフィコ横浜

製造現場で利用される最新の画像処理技術、アプリケーションを一堂に集めて開催される「国際画像機器展 2010」に出展しました。高出力スポット照明「HLV2シリーズ」をはじめ、2010年度当社より発売された新製品を中心に展示を行いました。



## 「Vision 2010」

会期：2010年11月9日～11日  
会場：シュトゥットガルト・トレード・フェア・センター (ドイツ・シュトゥットガルト)

ドイツ・シュトゥットガルトで開催される世界最大の画像機器展「Vision 2010」に今年も出展しました。海外で新発売となる面照明「THシリーズ」、スポット照明「HLV2シリーズ」、大出力照明「HLDLシリーズ」、高出力光源ボックス「PFB2シリーズ」をはじめ、多数の新商品を発表しました。また、今回はブース内に簡易実験ユニットをもち込み、その場でソリューション提案をするという新しい試みも行い、好評を博しました。

## 「第7回 中国国際画像機器展」

会期：2010年10月27日～29日  
会場：中国国際展示場 (中国・北京)

中国・北京で、9カ国および現地の約100社が参加した国際的なマンビジョン展示会「第7回 中国国際画像機器展」に出展しました。ブースに新製品を中心に主力製品を出展し、期間中多くのお客様で賑わいました。今後、急速な成長が見込める中国マンビジョン市場において、引き続きリーディングカンパニーとして照明市場を牽引してまいります。



## 新製品情報

02 TOPIC

2011年5月発売

コンパクト  
コントローラー  
CC-PJ-0707

2010年11月発売

## HLV2-14



電子・半導体部品の製造工程のなかで、「HLV2シリーズ」は部品の位置合わせをするアライメントマーク認識 (位置決め) 等に多く使用されています。今回、世界最小・最軽量のスポット照明「HLV2-14」を開発しました。また、装置が小型化し工場の省スペース化が進んでいることに対応し、「HLV2シリーズ」専用コントローラー「コンパクトコントローラー CC-PJ-0707」を開発し新たに発売しました。

2011年6月発売

## PD3-3024-3



検査工程に合わせてLED照明の明るさや発光モードなどを外部制御できる次世代デジタル電源「PD3-3024-3シリーズ」を開発しました。従来品よりも外部制御機能を充実させ、製造現場のネットワーク環境に合わせて選べる3タイプ (パラレル・シリアル・イーサネット) の製品をラインナップ。また、1台で3チャンネルの同時出力が可能となり、機能面の充実を図りながら低価格を実現しました。デジタル表示を新採用し、デザインを一新させた次世代デジタル電源です。



(写真はDINレールに設置した状態です)

2011年7月発売

## LED電球



業界最高水準の演色性 (平均演色評価数<sup>※</sup> Ra=97) をもつ「自然光LED」を搭載したLED電球と業界最高水準の明るさ (全光束1,400lm) を実現したLED電球を開発しました。さらに、空冷ファンを搭載した独自の放熱構造により発熱を抑制し長寿命を実現しました。LED電球の設置場所や目的に応じて、お客様に選んでいただくことができます。

※平均演色評価数=色の再現性について善し悪しを表す代表的な指数として、平均演色評価数 (Ra) があります。ある光源のもとで、各色彩が基準光とまったく同じ色彩に見える場合その光源のRaは100になります。



## ■ 会社概要 (2011.7.31 現在)

本社所在地 〒602-8011  
京都市上京区烏丸通下立売上ル  
桜鶴岡町374番地  
TEL. 075-415-8280 (代表)  
FAX. 075-415-8281 (代表)

設立 1993年10月6日  
資本金 461,250千円  
従業員数 217名 (連結) 179名 (単体)  
取引銀行 みずほ銀行・日本政策投資銀行・  
滋賀銀行・京都銀行

事業内容 ● 画像処理用LED照明装置  
および制御装置の開発、製造、販売  
● 顕微鏡光源用、  
植物育成用、医療用、  
民生・商業用、  
その他LED応用照明の開発、製造、販売  
● 植物育成プラント事業

事業所 生産センター、光技術研究所、  
東京営業所、名古屋営業所、  
仙台テストングルーム、上海駐在員事務所、  
深圳駐在員事務所

関連会社 CCS America Inc.  
CCS Asia PTE. LTD.  
CCS Europe NV.  
CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVT. LTD.  
株式会社フェアリープラントテクノロジー

## ■ 役員および執行役 (2011.10.27 現在)

取締役代表執行役社長 米田 賢治 執行役 石井 博規  
取締役兼執行役 各務 嘉郎 執行役 大西 浩之  
取締役兼執行役 松室 伸二 執行役 上田 隆彦  
取締役 (社外) 安居 幸一郎 執行役 青山 茂  
取締役 (社外) 中河 光雄  
取締役 (社外) 酒見 康史  
取締役 (社外) 岩本 朗

## ■ 株式の状況 (2011.7.31 現在)

発行可能株式総数 65,103株  
(内訳) 普通株式 60,000株  
A種優先株式 5,103株  
発行済株式の総数 25,763株  
(内訳) 普通株式 20,660株  
A種優先株式 5,103株  
売買単位 1株  
株主数 2,894名  
(内訳) 普通株式 2,890名  
A種優先株式 4名

## ■ 大株主の状況 (普通株式) (2011.7.31 現在)

株主名	株式数	所有株式数の割合
1 米田賢治	7,180	34.8%
2 三菱化学株式会社	1,276	6.2%
3 株式会社サン・クロレラ	580	2.8%
3 サン・クロレラ販売株式会社	580	2.8%
5 シーシーエス従業員持株会	335	1.6%
6 大阪証券金融株式会社	322	1.6%
7 大賀昭司	187	0.9%
8 安井由美子	180	0.9%
9 原田熊太	145	0.7%
10 米田美鈴	142	0.7%

## ■ 株主構成 (普通株式) (2011.7.31 現在)

金融商品取引業者	外国法人等	個人その他
187株 0.91%	48株 0.23%	17,365株 84.05%
6名	6名	2,827名
金融機関		
486株 2.35%		
6名		
その他の法人		
2,574株 12.46%		
35名		

## 株主メモ

事業年度 毎年8月1日から翌年7月31日まで  
定時株主総会 毎年10月  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
同連絡先 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
TEL ☎ 0120-094-777 (通話料無料)  
公告方法 電子公告  
公告掲載 URL  
http://www.ccs-inc.co.jp/ir/koukoku.html  
(事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)  
基準日 期末配当金 毎年7月31日  
中間配当金の支払いを行うときは  
毎年1月31日  
上場証券取引所 大阪証券取引所 JASDAQ市場  
証券コード 6669

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## WEBサイトのご案内

「企業情報」では、動画とイラストでシーシーエスの事業内容や強みについて知っていただける「3分で分かるCCS」をご覧になれます。「IR情報」では、財務ハイライトやニュースリリース、説明会の動画などを随時更新しています。ぜひご覧になり、「お問い合わせ」のページからご意見・ご質問など、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。



### トップページ

「IR情報」の入り口はこちらです。

### 3分で分かるCCS

入り口はこちらです。

### IR情報ページ

最新の情報が見やすくなっています。



## 楽天ショップのご案内

民生・商業分野の照明は、楽天ショップにてご購入いただけます。業界最高水準の演色性をもつ「高演色タイプ」LED電球と業界最高水準の明るさを実現した「高輝度タイプ」LED電球。また、宝石貴金属店などで宝飾品の本来の色・輝き・装着時のイメージを確認する時に使用する「ダイヤモンドライト」等、多数の商品を取り揃えております。ぜひ一度ご覧ください。



### お支払い方法

入り口はこちらです。

### 商品一覧

現在好評発売中の全商品をごちから確認することができます。

## IR活動

### 個人投資家説明会を開催しました。

2011年6月25日(土)

会場：KDDIホール(東京・千代田区)

主催：株式会社インベストメントブリッジ

去る6月25日に開催されました個人投資家説明会におきましては、代表執行役社長 米田賢治より当社の事業戦略やビジネスモデルについてご説明させていただきました。また、当日は併せて当社製品の展示も行い、株主の皆様にご紹介させていただきました。その結果、たいへんご好評を頂戴し、第19期におきましても開催を予定しております。なお、次回の個人投資家説明会につきましては、詳細が決まり次第、当社ホームページにて告知させていただきます。



### IRカレンダー

今後の予定はこちらです。

### IRイベント

過去に行われたイベントの動画・詳細はこちらです。



<http://www.ccs-inc.co.jp/>



シーシーエス株式会社

〒602-8011

京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地

TEL. 075-415-8280(代表) FAX. 075-415-8281(代表)

未来が変わる。日本が変わる。



環境に配慮し、大豆油インキとFSC認証紙を使用しております。

### ■ 免責事項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、異なる場合があることをご承知おきください。